

審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

	課所名	教育総務課
会 議 名	令和3年度諏訪市総合教育会議	
開催日時	令和3年9月21日(火) 午後1時30分 ~ 3時05分	
開催場所	諏訪市役所 大会議室	
出席者	<p>(出席者)金子ゆかり市長、後藤慎二副市長、小島雅則教育長、岩波健一教育長職務代理人、矢島紀子教育委員、関茂子教育委員、玉本広人教育委員、前田孝之企画部長、細野浩一教育次長、寺島和雄企画政策課長、柳平直章教育総務課長、小林純子生涯学習課長、柿崎茂スポーツ課長、下澤淳企画政策係長、長田一彦教育総務係長、森崇教育企画係長(計16名)</p> <p>(傍聴者) 4名 ※別紙傍聴名簿参照</p>	
資 料	別紙	
協議議題(内容)及び会議結果(要旨)		
<p>1. 開会 (進行:前田企画部長)</p> <p>昨年度3月16日に開催されたこの総合教育会議において、上諏訪小学校、上諏訪中学校における、一貫教育の評価・検証、二つ目に東部地区第1期以降の小中一貫教育の導入、それと三つ目に次の小中一貫教育の取組について、四賀小学校、中洲小学校、諏訪南中学校を対象とする南部地区、これを重点地区とするということで意見交換をし、その後の定例教育委員会で再度協議、その方向性を固めたところである。</p> <p>本日の総合教育会議においては、それらのテーマを踏まえ、テーマⅠとして「未来創造ゆめスクールプランの現状」と題し、上諏訪小学校及び上諏訪中学校で始まった小中一貫教育の現状について報告をするとともに、次の重点地区である南部地区を進めていく上での課題等について、意見を賜りたい。</p> <p>テーマⅡについては、来年4月成年年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ、成人式のあり方についてそれぞれの立場で考える機会としたい。</p> <p>市長は行政の代表として発言者の立場で当会議に出席し、副市長の出席を求め議論を行うこととする。</p> <p>総合教育会議は原則公開とし、会議の議事録は法の定めに従い公開することとなる。傍聴人及び取材者は、会議中は静粛にすること、議事に批評を加え、又は賛否を表明しないこと、会議の妨害になるような行為をしないことをお願いしたい。</p>		
<p>2. あいさつ (金子市長)</p> <p>令和3年度もまもなく半年が過ぎようとしている。小島教育長を筆頭に教育委員4名には、教育委員会の活動を担っていただいていることに心から感謝を申し上げる。特に昨年からは新型コロナウイルス感染症、全世界的にあらゆる分野に影響を及ぼしており、学校現場においても、あるいは生涯学習の市民の活動の分野でも、本当に大きな影響がでている。特に学校は、子どもたちを預かっている立場であり、現場の校長先生や教職員の方々の苦労はいかばかりかと拝察する。それでも、色々な工夫をいただき、諏訪市内の小中学校、無事に今まで進めてくることができていることに、感謝を申し上げたい。</p>		

本日、議題になっているが、小中一貫校、今までの歴史の中で、初めてのスタートを今年度 4 月から切った。準備に際しては、皆様のご理解とご協力をいただき改まる時代への挑戦の一步をスタートすることができた。私のところにも市民の方から、声が届いてくる。今現状においては、後程報告もあろうかと思うが、特に小学生の子どもたちが、中学校の校舎に行けるのを非常に楽しみにしていることや、あるいは中学生は少し大人のマインドが育っているというか、先輩としての自覚が育っているというような報告をいただいております、おおむね順調に出航できたというふうに捉えている。この後の議題にもなっているが、これが皮切りであり、休む暇なく次への準備を重ねていきたいと思っている。その上でも今日は大変大切な総合教育会議の場になろうかと思う。委員におかれては忌憚のない意見を出していただきたい。また、もう一つのテーマもある。広範囲に渡って教育分野というのは全市民がそれぞれに関わる大切なテーマであり、今後も皆さんとともに意見をぶつけ合いながら、また相互に理解を深めながら、より良い教育行政につながっていくように期待し、私自身も引き続き、努力を重ねてまいることを申し上げて、最初の挨拶とする。本日はよろしく願いたい。

(小島教育長)

今市長から挨拶があった。その他教育委員会としてご挨拶をさせていただく。教育改革と称して色々な道筋を歩んできた。いわゆる一貫教育の最初の形ができて進んでいる段階であるが、今の話にあったように、歩みを止めないということが大事だということである。何故歩みを止めないのか、それは家庭では子どもたちが待っている、そして 20 年後 30 年後の子どもたちが待っているということである。また、やはり教育の場というのは、地域にとっても大変な願いである。思えば明治の初めに、いわゆる本町に柳口学校ができた時に、この諏訪と上伊那の地域は、全国でも有数の就学率を誇っていたそうである。そのくらいこの地域の人たちは教育にかける熱がある。そんな中で、これは大事な責務、伝統であると思っている。そういう中で、新しい形をつくる、子どもたちの夢を叶えるための大事な教育の場をつくるということ、これは大変であるが、やりがいのあることでもある。

平成 25 年から開始したこの取組も、もうずいぶん月日が経ち重点も移ってきた。歩みを止めない中で何ができるのか、何をどうしたらいいのかということ、ぜひとも議論したい。お互いの意見をぶつけ合って、これからの方向を考えていきたいと思っている。今日は貴重な機会である。よろしく願いたい。

3. 議題

<テーマ I 「未来創造ゆめスクールプランの現状について」>

(進行:細野教育次長)

本日の進め方であるが、話題を三つ用意している。それぞれの話題ごとに事務局から最初に説明を行い、最初に教育委員 4 名、その後、市長、教育長、最後に副市長の順番で意見をいただく。この会議については、法律により首長と教育委員会が教育の施策について協議、調整を行う場とされており、自由な意見交換が認められる場である。この場において何かを決定するという機関ではないので、率直な意見交換をぜひ願いたい。

それでは早速議題に入る。まずテーマ I の(1)「上諏訪小学校及び上諏訪中学校で始まった小中一貫教育の現状」について教育総務課長より資料を説明申し上げる。

(1) 上諏訪小学校及び上諏訪中学校で始まった小中一貫教育の状況について

(柳平教育総務課長 『未来創造ゆめスクールプラン 諏訪市の小中一貫教育 新たな歩み…始まりました!』の資料について、パワーポイントを用いて説明)

(細野教育次長)

ただいま、子どもたちの様子、それから先生方の取組、地域の方々とのコミュニティスクールの関係、夏休み前までの様子が中心であるが、報告をさせていただいた。それでは意見交換をさせていただきたい。最初に、矢島教育委員、感想、意見をお願いしたい。

(矢島教育委員)

上諏訪小学校、上諏訪中学校を訪問する機会があり、そこで感じた現在の様子を含めて思うことを述べたい。今年の6月に東部地区第1期のゆめスクールプラン推進委員会の最後の会が行われたが、その時上諏訪中の校長先生の話の中に、「新しい当たり前が生まれてきている」という言葉があった。また、先日上諏訪小を訪問した際に、校長先生から小学校の先生や子どもが中学校の廊下を歩き、中学生とお喋りをしたり、中学校で勉強したりする姿が自然な形となってきているという話があった。開校当初靴を履き替えて移動するということが大変そうに思われたということであるが、始まってみるとそれほど時間がかからず、移動ができてきているという。中1ギャップということの中には、学習面のつまづきもあるかと思うし、新しい環境に馴染めない子ども、そして小学生にとって中学生はとても大人に見えて先輩は怖いと心配する子どももいると思うが、早くから交流することによって、そういったことも解消につながっていると考える。今後検討が始まる他の地域では、施設の形に関わる検討も進めていくと思うが、それとともに、オンラインの利用等も含めて様々な小中一貫教育の方法も考え、できないことよりも小中一貫教育の良さを生かすための方法や工夫をしていくことが大切であると思う。

(細野教育次長)

矢島委員からは、教育委員会としても気にしていたところではあったが、上小と上中、近いようであるが、子どもたちは毎日通わなくてはいけない点について、非常にスムーズになってきていることを、訪問して感じられたとのことであった。続いて関委員にお願いしたい。

(関教育委員)

この4月より多くの人の長年の夢を乗せて上諏訪小学校が開校したこと、大変嬉しく思っている。この3月は、特に城北小、高島小の閉校、引越し、それから上諏訪小学校の開校と、本当に忙しく、先生方も事務局も大変だっただろうと推察しているが、そのような中で、各教科の小中9年間の系統性を考えて見直しを行い、上諏訪小中学校の一貫校としての時間割を工夫した上で開校できたこと、そして、今も確かな歩みを積み重ねているということは素晴らしいことである。その中で、特に感じた小中一貫校ならではの良さをあげてみたい。

まず算数・数学科、英語科、技術家庭科で小中の合同教科会を持ち、ジョイントカリキュラムを策定し、それに沿って授業をしているということは、一貫校ならではのことであり、学力アップのためにぜひ必要なことだと思っている。二つ目は、上諏訪中学校では学年担任制、上諏訪小学校5、6年では、中学校の先生方を含めた教科担任制が行われているとのこと。このことは、今まで多くの子どもたちが、つまづきやすいと言われていたいわゆる中1ギャップの解消にとっても役立っていると考え。県費の加配の先生1人と、市費の2人の先生方がいることで、学年担任制、教科担任制の運用がスムーズに行われているのだと思う。来年度以降も、県費の先生を引き上げられないように働きかけをし、市費の先生方には続けて勤めていただけるよう配慮をお願いしたい。と同時に、このような小中一貫校の良い取組を多くの方々に分かっていただき、さらに応援していただけるようにするために、大勢の方に実際の様子を見ていただくことは大変重要なことであると思う。とりわけ長い間、関わってくださったゆめスクールプラン推進委員会の皆さんには、自分たちが答申した結果を見届けるという意味でも、ぜひ上諏訪小中学校の普段の授業を見ていただくべきだと思う。さらにそれがこれからの南部地区、西部地区への小中一貫校への推進力となっていくことと思う。私も小中一貫校となった上諏訪小学校、中学校を訪問できるのを今から楽しみにしている。コロナ禍であり大変だとは思いますが、少人数で行う等の工夫をして、学校参観を早い時期にぜひ実施していただきたいと強くお願いしたい。

(細野教育次長)

引越し、それから開校、とてもスムーズであったというお話を最初にいただいた。まさに先生方を中心に、保護者の方、それから地域の方々、多くの方に支えられて、また理解をいただいて教育委員会としても開校ができたと思っている。関係された皆さんに改めて感謝を申し上げたい。続いて、玉本委員にお

願いたい。

(玉本教育委員)

このコロナ禍の中でなかなか思うように最初に計画したことが進まないということは多々あるかと思うが、そのような中でこの小中一貫校を進めるということに関しては、上諏訪小学校、上諏訪中学校の皆さん、本当にご苦労いただいているのではないかと思います。私どももこのような状況であるため様子を見に行くことがはばかれるところであり、直接見ることができないのは大変残念であり、また先日、初めての運動会が延期になったということも聞いた。一体感を醸成する非常に良い機会だったと思うが、延期ということであり、またいずれ行われるとは思いますが、このような非常に大変な状況の中、今報告を聞くと、半年という中で、様々な年齢の集団、それぞれの年齢での交流が盛んに行われているようで、それが、特に児童生徒に非常に良い影響をもたらしているのではないかというふう感じた。以前視察をした信濃町の小中一貫校で感じた、とても良い雰囲気にも近づいているということであれば非常に喜ばしいことだと思う。子どもたちの適応力というのは本当に素晴らしいと感じている。ただアンケートの中でおおむね楽しい、わかるとされているが、あまり楽しくないとかあまりわからないというような答えも若干ある。ぜひその辺についてもきめ細かく目を配っていただき、今後の他地区へのモデルとなるような、より良い進め方をしていただければと思っている。

(細野教育次長)

先週の土曜日上小の運動会、教育委員の皆さんに様子をご覧いただきたいと計画していたところであるが、残念ながら延期になった。関委員からも話があったが、授業の様子をまた見てみたいという玉本委員の話であり、そのような機会は大切だと感じている。最後に、岩波職務代理に願いたい。

(岩波教育長職務代理者)

まず市長はじめ多くの行政、そして民間の関係者の皆さんの協力と尽力によって上諏訪小中の一貫教育課程が立ち上がり、そして順調に経緯していることに感謝申し上げます。小中一貫教育はこんなにも素晴らしい、子どもたちにとって多くのメリットがあるということは、市からの広報の力もあり、市民に広く周知されてきていると思う。そして、うちの地域はいつになるんだろうという期待の声も併せて聞こえるようになってきた。ただ、一部には小中一貫教育の良さが明示されたがために実践している上諏訪小中と他校との教育水準に違いが出てくるのではとの心配の声も聞こえてきている。過去にも清陵中ができた時に、地元の中学と教育内容に格差が出て、高校受験に不利になるのではとの声が聞こえたこともあった。今回、上諏訪小中の一貫教育に併せて小中一貫教育プロジェクト推進委員会が立ち上がったことは、そういった不安の声を打ち消す意味からも大変ありがたいことだと思う。諏訪市が目指す小中一貫教育のあり方が、この推進委員会を通じて市内全ての小中学校の先生方の共通認識となって、南部、西部、東部第 2 期と、現在は離れた校舎での授業であっても上諏訪小中と同じ方向、同じ足並みで、小中一貫教育の良さが子どもたちに浸透してきてもらえれば嬉しい。反面、先生方の負担は増えると思うので、しっかりと理解をいただき尽力をいただきたい。そして先生方へのケアも願いたい。

(細野教育次長)

職務代理から話があった小中一貫教育プロジェクト推進委員会、説明でも最後に示したところであるが、諏訪市の全小、中学校から先生方に出ていただき、令和 5 年度からのソフト的なところの研究、検討を開始したところである。続いて、市長に願いたい。

(金子市長)

先ほどもコメントしたが、長い諏訪市、ここで市制施行 80 周年を今年迎えたわけであるが、その 80 年の諏訪市政の中で、教育において本当に大きな改革を今年スタートできたことを大変嬉しく思っている。ここに至るまでに何年も下準備を重ねてきていただいたわけであるが、勇気のいる話であった。変化を起こすということはずごく抵抗もあり、不安もあり、懸念もあるという中で、見事にスタートに結び付けていただいたことは教育委員や関係する皆さんの尽力の賜物と思う。何があったからよかったのかなと考え

ると、やはり夢だと思う。ゆめスクールプランにも「ゆめ」を付けてもらったが、やはりこの先新たな時代に、この新しい仕組み、教育について、パイオニア、開拓者として切り拓いていくんだというそうしたワクワクと、それから先に見えている夢、そうしたものが、みんなの気持ちを牽引したのではないかというように私は捉えている。ハードとソフトという捉え方があるけれども、校舎であったりあるいは組織であったり、そうした枠組みハードに対して、中身、ソフト。両方なければ立ち行かない課題であったが、この中身の充実についても、今話があったような推進委員会が立ち上がり、学年担任制や教科担任制だとか、そうしたソフトを充実させていただいたということ。これは、私はぜひ順番に待っているというのではなく、教育長と諏訪市内の小中一貫校をスタートしようじゃないかという話をした時に、高島小学校と城北小学校の話ではないんだと、そこだけの話に終わってしまったら誰も評価してくれない、諏訪市全域でみんなで作るから良いんだということを申し上げたことがあった。全部が小中一貫校を目指していくということになると、この成功事例と言われるものは明日にでもみんなでも共有できるものは共有していただきたいと思っている。今の報告を伺えば、本当に夢を持ちながら、子どもたちも先生方も開拓者精神で取り組んでいただいているということを実感でき、大変嬉しく思い感謝する。

(細野教育次長)

続いて小島教育長にお願いしたい。

(小島教育長)

今の市長のコメントに少し答えたい。小学校の教科担任制、中学校の学年担任制、これが非常に目玉になっているが、それぞれの学校だけではなくて、今目標が一つある。文部科学省が言うまでもなく大変効果のある学習方法であり、城南小でも、5,6年生で大々的にやっている。それから各小学校でも令和5年度を目指して、虎視眈々とそういう準備を始めている。中学の学年担任制というのは、いわゆる生徒指導、学校の問題点に非常に有効であるということもわかってきた。それから働き方改革にも通じることがわかった。これもそれぞれの中学校で来年から始まる。そんなことを一つお答えしておこうと思う。

ゆめスクールプラン、今委員の皆さんにも色々お話しいただいたが、一つはずっとここ何年も委員の皆さんに支えていただいて、自信を持って開校できたんじゃないかと思って感謝をしている。信濃町の学校の話も出たが、その時の校長先生が本にも書いている。小中学校の異年齢の子どもたちが、今では街中でも見られなくなってしまっているが、それを学校の中でつくること、そのことが何をもたらしたか、それはいわゆる思いやりというか、「人間関係の化学変化」だというふうに言われていた。化学変化ですから、予期せぬ何というか展開、驚きもある。今回上諏訪小中ではどうか？私は小さいながらその化学変化が起こってきているのではないかと思う。特に中学生の下の子どもたちに対する思いやりとか、仲間意識とか、そういったところが大変クローズアップされ、育っていると私は思っている。やはり子どもたちというのは本能的に自分や他人を守ろうとするし先輩には憧れを持つし、そういうものがしっかりと息づいてきているのではないかと思う。大変良い、子どもたちの人間関係の雰囲気である。もちろんなかなか上手いかない子もいる。一人一人を大事にということで、取り残さないように、大勢で見ていくことを大事にしていきたいと思っている。平成25年に始まった時に、一貫教育を志望していたが、とにかく大事なことは「スチューデントファースト」という、子どもを真ん中に置く、そういう感覚を持つこと、それが教育を考える根本であるというふうには私は思っている。このことがずっと続けてこられてきて、本当にありがたいと思っており、今後もさらに頑張ってもらいたい。

(細野教育次長)

最後に副市長お願いしたい。

(後藤副市長)

教育委員会事務局のOBという立場で懐かしくスライドを見させていただき思い出したことは、地域に説明に入った時に、多くの保護者の方や地域の方が「一体小中一貫教育でどんなメリットがあるんですか？」という質問をたくさんいただいたこと。そのように聞く保護者の気持ちは私も保護者として十分理解

できる。ただ一方で少し自分の中に違和感があったことも事実。小中一貫教育というでき合いの商品が売っていて、その商品を上諏訪小中に当てはめるわけでは決してなくて、多分先生も事務の職員も地域の皆さん、子どもや児童や生徒と同じようにこの小中一貫教育の主役であるはずで、みんなで一緒につくってくださったよってというのが、この我が市の小中一貫教育の理念だっていうふうに思いながら説明をしていた記憶があり、先ほどそれを少し思い出した。今取組を見させていただき多分これから失敗はあると思うし、上手くいかないこともたくさんあると思うが、ぜひこの取組を市民に広く知らせてほしいと思う。こんなことやっているんだよ、こんなことが上手くいってないよってということも、市民に知らせて、全部見せて、広く知ってもらうことがすごく大事であると思う。関委員のコメントにもあったが、広く知っていただくということ、プロジェクト推進委員会の取組も素晴らしいと思う。ぜひ皆さんに知らせながら見せながら進めていければ良いと考える。

(細野教育次長)

市民の皆さんに知らせるという点で、あいプランだより、10月1日号。その中でも小中一貫のことに触れている。進めていく上で、市民の皆さんにも知っていただく、そんなことが大事なことである。上小上中でスタートした小中一貫校について、皆さん方からご意見をいただいた。

(小島教育長)

先ほど申し上げようと思ったが、4月以来学校の現場を見学とか色々企画していたが、コロナの影響で難しく、行事も来賓を呼ばないこととなったり、そういうことで、なかなか足が遠かったわけであるが、今後何とかレベルが下がれば、そういう機会を積極的に取っていきたいと思っている。運動会も延びたが、ぜひ見学できるように祈っている。

(細野教育次長)

次の話題に移りたい。上小上中で始まった取組をどう生かしていくのか、これは大変重要なことであるが、次という点で、重点地区として、南部地区を進めていくということになっている。そこでテーマに南部地区を進めていく上での課題等ということで資料を用意させていただいた。教育総務課長から説明をさせていただきます。

(2) 南部地区を進めていく上での課題等について

(柳平教育総務課長 『南部地区を進めていく上での課題等について』より説明)

(細野教育次長)

南部地区をこれから進めていくというところで、主な課題ということで拾いあげた。これを基に、検討は今後ということになる。そういう段階ではあるが、早速玉本委員からコメントいただきたい。

(玉本委員)

前回そして前々回のこの会議で申し上げたが、南部地区においては、ゆめスクールプランが目指す最終形である施設一体型を実現すべきだと私は考えている。市民の皆さんに早めにその理想とする形を現実のものとして見ていただきたい。今後は、他地区では施設分離型と違う形を間に挟んでいく場面があると思うが、行きつく先が見えていることは安心感につながると思う。そして、最終形へのスピードが加速されることも期待できると思う。そのためにも、先ほどもあったが上小上中の取組をしっかり検証、精査していただき、それを生かす形の素晴らしいソフト的なものを組み立て、ジョイントプログラムとか系統表とか素晴らしい取組を、ぜひ生かしていただく形で、施設一体型という最終形そして上小上中からもたらしていただいたソフトとしての理想形、この二つが融合した形の素晴らしい学校ができるんだということ、そういうイメージに向かっていくということがわかれば、先ほど色々説明していただいた、それぞれの課題も解決していくんじゃないかと思っている。

(細野教育次長)

具体的に施設一体型という話もあった。それも含めて今後検討になろうかと思う。それでは、岩波職務代理をお願いしたい。

(岩波教育長職務代理者)

今回いただいた資料にもあるが、各学校の築年数や災害対策に関しても、難があるような状況だと思っている。南部地区の大きな課題として、やはり施設の老朽化というのが大きくある。このような状況から南部地区においては、小中一貫教育を考えるにあたって、校舎施設一体型、隣接型、分離型いずれにするにせよ、校舎のあり方というものを検討していただくべきだと思っている。できるのであれば今も玉本委員から話があったが施設一体形で検討を進めていただければと思う。先ほど市長が夢があったから小中一貫が実現したという話をされた。その夢の続きとして、小中一貫教育の器としての一つの理想型は施設一体型であると思う。市民に小中一貫教育を具体的に実感していただける場というものを設けることが必要かと思う。先に述べたように、南中はともかく、四賀、中洲小学校は建て替えの検討が必要な時期に来ていると考える。大規模な改修もありかと思うが、その後の建て替えを考えれば、この際一気にというのもありなのではと考える。とにかく大きな財源が必要なことではあるが、検討いただければと思う。また、学校は地域のコミュニティーの中核となる施設でもある。個人的には、現在の南中を中心とした地域が望ましいと思うが、周辺の宅地化がかなり進んでいる。そういった面も含めて、早い段階から土地の確保等のことも検討いただきたい。

(細野教育次長)

施設整備に関するところ、ご意見を頂戴した。続いて関委員にお願いしたい。

(関委員)

私は南部の小中一貫校の通学区の立場から考えてみたい。学校というのは、その地域の文化の中心であり、子どもばかりでなく先輩の方々もうちの孫はどここの学校に通うのか、地元の子どもたちはどこに通うのかということが、大きな関心事だと思っている。そういう意味で、通学区を学校までの距離や子ども的人数というよりも、今までの地区のまとまりや伝統等を重視したところで考えたいと思っている。南部地区にできる小中一貫校の通学区は、原則的に今の小学校で言えば、四賀小、中洲小学区という区切り、旧四賀村、旧中洲村という区切りが良いと思う。今現在は、中学について、四賀地区の武津、細久保、普門寺の子どもたちは諏訪中に通っている。そこで、南部に小中一貫校ができた時には、通学区の見直し、あるいは変更が必要になってくる。その時は、今回城南小学校の通学区の一部を上諏訪小学校の通学区にした東部地区の経験を基に、地域を間違えないこと、兄弟関係、保育園、幼稚園、未満児等を含めて見落としがないようにすることとともに、保護者、地域への説明を丁寧に行い、時には区間を区切って学校を選択できるようにする等、柔軟性をもって進めていただければ良いと思っている。

(細野教育次長)

関委員からは、通学区に焦点を絞ってお話をいただいた。保護者、それから子どもたち、将来通う子どもたちも含めて、十分に話し合いをしながら合意形成をつくっていく、最も大事なところであると思う。最後に矢島委員にお願いしたい。

(矢島委員)

今までの意見からも南部地区においては、施設整備や学区においても、東部地区第1期とは違った課題があり、長期的に考えていく必要があると思う。そこで進めていくにあたって、再編推進委員会の立ち上げについて意見を述べたい。先ほど出た意見と重なるが、まずは市民の方に上諏訪小中の取組について知ってもらいたい。今はコロナ禍で行事にも制限があるが、学校生活が少し戻ってきたら、小中一緒の行事や交流も先ほどのあいプランだよりやメディア等にも取り上げてもらい、それを見た多くの方がこんなこともできるんだ、自分の子どもにも経験させたい、この地域ではどんなやり方があるのかなと思ってもらうことを始めとしたい。そして南部地区では、まずは先ほどの検討組織についての説明にもあったが、少人数の座談会みたいな会であれば意見が出しやすいと思うので、少人数の集まりで思うことを出してもらい、それを基に教育委員会で素案を作り、再編推進委員会を立ち上げるということにしてはどうかと思う。長期的になることが予想されることから、早くに推進委員会を立ち上げてしまうと、委員に選

ばれた方の子どもが義務教育を卒業してしまうことも考えられるので、ある程度地盤を固めてから委員の選考をし、委員会を立ち上げると良いと考えている。

(細野教育次長)

矢島委員からは検討組織の立ち上げについて話をいただいた。それでは、金子市長お願いしたい。

(金子市長)

それぞれポイントからコメントをいただいた。施設については、やはり四賀小学校、中洲小学校が築 50 年半世紀という状況であるので、この課題、どうしても施設のことについては取り組まなければならないと感じる。特に、四賀小学校は、急傾斜地で、先日の豪雨の時も、近隣のところに少し雨の影響を受けたところがあった。そのことは私も気に掛けている。それと学区について、将来を見据えたとき、やはり子どもの人数の推計、これをどのように推計するかということがすごく大事なポイントだと思っている。このところ過去 20 年位においては、上諏訪地区から人口の流出があり、一番増えているのが中洲地区。その次が豊田地区、そして湖南地区。それぞれ村部と言われているところに人口が移動しており、上諏訪地区は特に若い世代が減っていることから、高齢化率が軒並み上がっているという状況が見てとれる。そうした中で、これが 20 年後どうなっているのかということについて、今と同じようなトレンドでずっといくというのは少し安易だと思う。もちろん中心市街地や、街中の再生、コンパクトシティというような施策を持ちながら取り組んでいくわけで、そんなことを考えると、その学区のことも、四賀の学区を触るということは、当然東部第 2 期、城南小学校、諏訪中学校、これをどういうふうに扱っていくのかということに関連していくので、そこはやはりしっかりと皆さんから意見をいただき、議論をいただく課題になるんだろうというふうに感じている。それから検討組織は、矢島委員も話していたが、やはり段階を見ながら、たくさんの皆さんに意見を寄せてもらうというその仕組み、関わっていただく方が多いということは良いことだと思う。それから市として、施設、数十億という予算が推計されるが、今少し忘れがちなのは、城北小学校の施設が空き校舎のまま市の所有であるということ。そうした中、市の財政もマネジメントしていかないといけないという課題がある。よって、このこともやはり忘れてはいけないと思い、どう扱っていくのか、どういうふうにも有効利用するのか、あるいは処分するのか、どうしていくのか。私たちにはやはりお金を生み出すという責任がある。一緒に知恵を絞っていただけたらありがたいと思う。

(細野教育次長)

続いて小島教育長お願いします。

(小島教育長)

話があった中で思うのは、南部地区の問題は大変課題が大きい、多岐に渡るということ、今の財政の問題も一つであるし、そもそも大きな地域が一緒になる、大変大きな課題であると思っている。それと同時に、地域の期待も非常に大きい。様々な人のご意見の中で、早くという人もいるし、じっくりやれという人もいる。それから地域の事情もある。学区の問題にしても、色々な経過の中で学んできたけれど、大変大きな課題。コミュニティースクールは全市でやっているが、これが当初、徐々にできてきた過程を見ると、四賀地区、中洲地区、諏訪南中もそうであるが市の中でも非常に早かった地域で、モデルになった、特に四賀の場合は。地域の皆さんが学校に寄せる思い、願いそういうものが大変大きい地域、どこでももちろんそうであるが、そういうことを感じてきた。そんな意味でも地域の声によく耳を傾けて、期待を把握しながら、進めていくことが大事である。ということは委員会も軽々につくることはできない、拙速にやることではなくて、じっくり課題を絞って声を聴いてということ、前回のことも反省というかやり方を評価する中で、大事な教訓かなと思っている。どういうものを建てるかということについては、「ゆめスクールプラン」であるから、その「ゆめ」の中には、校舎というものがあるんだと思っている。どうかそれも含めて、将来できれば子どもたちが交流できる豊かな学校というものをつくっていきなさいと思っている。

(細野教育次長)

最後に副市長にお願いしたい。

(後藤副市長)

市内に三つの小中一貫校をつくるという最終的なゴールは総論で多分皆さん理解いただいていると思っている。最初の一步がこの4月から始まった上諏訪の小中の取組、その最初の一步が最初の一步だけで終わらないために次の二歩目、三歩目というのをやはり動いているんだよということを、確実に市民に知らせていくということが大変大事なことで、そういう意味で重点地区を南部に置いたということを表明したことに意味があるというふうに思う。では具体的にどうしていくのかということで、今回課題が3つ示された。この課題を見ているとその通りだなと思っている。これをどう解決していくかというのが次の取組になると思うが、それぞれ施設整備についてはいろんな見方があるというのは私も今日良く理解ができた。財政的な面については、私の大きな任務の一つであることから、この場でどうするという発言はできないが、一緒に考えていきたいと思っている。

(細野教育次長)

冒頭、教育長の挨拶の中で「歩みを止めない」という話があった。副市長からもその話をいただいた。財源はどうしても考えていかななくてはいけない、重大な課題であると教育委員会としても理解している。市長部局と、しっかり協議を進めてまいりたい。

<テーマⅡ「成年年齢が18歳に引き下げられた後の成人式について」>

(細野教育次長)

成人式について、生涯学習課長から説明をさせていただきたい。

(小林生涯学習課長『成年年齢が18歳に引き下げられた後の成人式について』より説明)

(細野教育次長)

成人式の位置づけ、意義それからどんなことをやっていくかということで、素案を説明させていただいた。岩波職務代理からコメントをいただきたい。

(岩波教育長職務代理者)

今説明いただいた事務局案、令和4年度以降、諏訪市において成人を祝い励ます手段という部分に賛成したい。二十歳の集いの趣旨にあるように、それぞれの道を歩き始めた、また、故郷に集う機会を持ち、諏訪の良さ、地域の仲間のありがたさを再認識してもらう良い機会になればと思う。それぞれの方が経験したことを振り返るには、民法上、書類上の成人たる18歳よりも18歳から2年経過した20歳2年間の経験を踏まえた良いタイミングだと思う。併せて、行政が音頭を取って集まるきっかけをつくってあげるといった必要性もあろうかと思う。時期については今まで慣れ親しんだ1月を含め、色々ご意見があると思うが、個人的には、5月の連休というものが意外と良いのではないかと思う。今年コロナ禍で、残念ながら式はできなかったが、5月の文化センターに多くの成人が集まり、市で用意していただいたフォトスポットを使つての写真撮影等なかなかの盛況だったと聞いている。事前に日時の連絡をしっかりすれば、多くの方が集まっていたのではないかと思う。また、5月であれば、新成人の方が全員間違いなく20歳になっているので、お酒も飲める。市内の飲食店に割引券と協賛をいただいて、二次会需要を喚起したりということもできるのではないかと考える。もちろん、貸衣装を含め市内の事業所に需要が生まれるような施策も併せて考えていただければありがたいと思う。

(細野教育次長)

続いて、矢島委員にお願いしたい。

(矢島委員)

18歳で成人になるにあたって心の面について思うことを述べたい。成年年齢が18歳に引き下げられると、契約等の権利は増えるが、進学等でまだ安定した収入がなく、自立した生活をしていない人もいて、何となく足元が固まっていない状態だと思う。一方で、この年齢の子どもたちは子どもの頃からネット等を通して世界中の様々な情報を得られてきていて、それを周りの人に相談したり、自分で考えたりし

て、ある程度情報を取捨選択できる力はできているとも思う。18歳を成人として、色々な情報から選択をし、考えて行動を起こす、そういった責任ある年齢になったのだという意識は大事だと考える。ただ最初に述べたように、経済的に自立をしてない人もいて、またネット社会によって、人との関わりも減って、大人になるのが不安、生きづらさを感じる、人とどうコミュニケーションを取ったらよいかわからない等という悩みもあるとのこと。諏訪市ではファーストブック、セカンドブックを乳幼児期に配っているが、いずれもその時期に配る意義がある。そこで最初の説明の中にもあったが、18歳成人の節目にサードブックのような本を配布してはどうか。もちろんもう自分で選べる年齢であるので、若い人たちの意見を取り入れて選択できる種類、例えば詩集でも良いし、生き方本、色々なジャンルがあるが、少し選択の種類を多めにして、選んでもらえればと思う。今の子どもたちは文字離れをしているとも言われるが、就職や進路で迷うこの時期だからこそその一冊に巡り合えると良いと考えている。

(細野教育次長)

サードブックの話を読載した。続いて関委員にお願いしたい。

(関委員)

事務局からの丁寧な説明を聞き、経過がよくわかった。諏訪市として市民へのアンケート、成人式スタッフとの意見交換、社会教育委員会議での意見聴取、ひとつひとつの対応がそれぞれ良かったと思う。幼稚園、保育園から小学校、中学、高校と諏訪市に学んだ子どもたちが成人の節目に集まり、未来に触れてともに夢を描けるような集いを持つこと、私も市民の一人として応援したい。今までの成人式は、市内の4校、上中、諏訪中、西中、南中のような座席があったり、思い出のスライド等もあり、それぞれの工夫がされていることを見ていたが、諏訪市全体の成人としてのあり方を考えると、諏訪市立の4校だけではなく、県立の諏訪清陵中学、諏訪養護学校、それから例えば松本あたりの他地域の私立中学を卒業した子どもたちにもぜひ参加しやすい配慮をして、諏訪市に育つ子として、育った子として、みんな集いを盛り上げていく必要があるかと思う。そして、新成人にとって二十歳の集いが、故郷諏訪の良さを仲間とともに再確認できる場であつたら素晴らしいなと考える。

(細野教育次長)

最後に玉本委員にお願いしたい。

(玉本委員)

5月に行われた今年の「成人式」、少し見に行ったが、非常に和やかな雰囲気の中で、成人が本当に集っていて、中庭で歓談したり、非常に良い雰囲気だったと思っている。本当に良い企画だった。感謝申し上げる。実際に今後の成人式をどのようにやっていくのかということであるが、成人の定義は18歳になったわけであるから、18歳において何かしらのけじめはつけたほうが良いのだろうと思っている。先ほど本のプレゼントという話もあった。そのようなことも必要であるし、やはり大人になった成人になったということをきっちりわかっていたかなくてはいけない、伝えることが必要なのかなと思う。例えば、普通の人の話では聞かないかと思うが、皆さんに知っていただいているような方の講演会みたいなものをWEB配信するだとか、そんなようなこともアイデアとしては考えていただければ良いのではないかと考えている。そして、実際の成人式は、二十歳の、大人の集いというのをやりたいということであるが、今までの流れから考えれば、いきなり18歳で盛大な式をやるというのはなかなか難しいだろうということで、20歳で行うというのが良いかなと感じている。私自身が成人式に出ていないため、実際の成人式に出る側の気持ちによって色々中身、感じることは違うだろうと思うが、式を挙げる側としては、諏訪から出て行った人たちがぜひ諏訪に戻ってくるということを考えるきっかけになっていただきたい、そのためにも、企業や戻ってきた先輩の話聞かせていただいたり、また諏訪の魅力を再認識していただければ、そういうことを伝えていただくような良い機会になってもらえればと思っている。

少し成人式の話とは離れるが、先ほどから議題になっている小中一貫教育も含めた教育環境や、子育てのしやすさ、そんなようなものについても、諏訪に戻ってくる一つの材料になるのではないかなと思っ

ている。ぜひ市の施策として考えていただければと思う。

(細野教育次長)

金子市長にお願いしたい。

(金子市長)

成人を祝うということは、成人になった成人本人に対して、私たちがおめでとうと言うことはもちろん、それまで苦勞したり、色々な経験をしながらも、子育てをして大きくしてきた親御さんだとか保護者の方だとか、学校の先生だとか、そうした人たちの力があって、大人になったということになるんだと思うと同時に、社会的責任、これをしっかり自覚するという大事な節目を祝うことだと思う。七五三であったり、誕生日であったり、私も最近経験した還暦祝いだとか、そういう節目節目に気を付けたり成長していく竹の節のようなものだと思う。よって、成人が何歳かと言ったら、法的に 18 歳が成人になったので、18 歳が成人のお祝いだとは私は思う。そのやり方については、成人式をやるのが成人ではなくて、今言った中身が、自分の人生の中で節目として大事な、子どもから大人というその節目を認識することがすごく大事であって、生涯学習が提案したサードブックのプレゼントもすごく良い提案だと思って聞いていた。今は大学へ行く人がたくさんいたり、進学したりということがあがるが、この先おそらく教育の形はどんどん変わるというふうと思うと、10 年後に 18 歳で成人になった時に、何故 20 歳でお祝いしているのか疑問に思ったり、そういう時に 18 歳に戻しますっていうのはすごく大変である。法律が変わって 18 歳が成人だという根拠をもって変更するのであれば、それは今が大事かなとは私は思う。行政として祝うのであれば 18 歳が良いと思う。ただ、今まで先輩たちが永遠と 20 歳にみんなで集まって、旧友同士で懐かしんだり、お前どうするんだとか、私はこうしたいんだというよことを話せるような場があることは、価値があることだと思う。一方、最近成人式も主催の中に実行委員会ということで 20 歳の若者が主体的に実行委員会として関わる、これが非常に大事だということになってきている。ということであれば、二十歳の集いというのは、任意の友達に声を掛けて、横の学年を貫いて、学校を超えてみんなでやらなきゃということが主体的に起こってきたときに、行政としてはそれを支援する仕組みを持っている。そういう主体がしっかりとしているということが大事ではないかと私は感じている。10 年後とか 20 年後に、今後 18 歳成人というのが社会に沁み込んでいくということであり、経済的だとか精神的だとか、社会的自立、こうしたものは若い人たちに 18 歳で求められてくる、社会に沁み込む仕組みということが行政としては大事なのではないか。過去から引き継いできた慣習は、それはそれで少し別の視点で取り扱ってはどうかというのが感想である。決めているわけではないが、皆さんの意見を聞きながら、発言させていただいたところである。

(細野教育次長)

市長の意見については、検討させていただきたい。教育長お願いしたい。

(小島教育長)

この問題が出てきてから、非常に難しかった、18 歳ってなんだとか、今回、18 歳、20 歳の位置付けについて、一つのけじめとして考え方を示してもらったというように考えている。学校では、10 歳 4 年生で 2 分の 1 成人式というものが行われるようになった。狙いは今の市長ではないが、やはり公民として生きていくための一つのけじめというか、そういうものを教えるための、それから自分への肯定感、そういうところで行われるようになってきた。18 歳、20 歳それぞれの時代に合わせた区切りというものをお大切にしていけることが大事であると思う。いずれにしても、毎年毎年「成人」になるので、しっかり決めて遅れないようにしたいと思う。

(細野教育次長)

最後に副市長にお願いしたい。

(後藤副市長)

集いを 20 歳でやることは、これまでの流れから行くと自然な流れだと思うが、その集いを誰が主催し、企画し、誰が運営するのかというのは一考の余地があるのだと思う。それよりも今の皆さんの話を聞いて

て、18歳が成人なんだよということを、18歳の人たちにどうやって自覚をしてもらうのか、かなり重いテーマだなと思って聞いていた。誰がどのように、「君たち18歳だから今日から成人なんだよ」ということを伝えていけば良いのかということは、きっと大きな課題だなと思ったところである。

(細野教育次長)

教育委員会として今日は考えている素案を提案させていただいたが、皆さん方にいただいたご意見を参考に、今後また教育委員会内部で検討してまいりたいと思っている。また、ご相談に乗っていただきたい。議論についてはここで終了とする。司会を前田部長に戻させていただきます。

4. 閉会

(前田企画部長)

様々な課題があるが、行政としても、市長部局としてもいろんなご意見をいただき、大変参考になった。教育委員会とともに、この諏訪の教育をしっかりと考えていきたいと改めて思った次第である。本当に委員には貴重な意見を賜り感謝申し上げます。以上をもって、令和3年度諏訪市総合教育会議を閉会とする。ありがとうございました。

以 上